

春風秋霜 1月号

令和3年1月5日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新年を迎え

新年あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスにより、様々な変革が求められた年でした。長期休業に伴う教育課程の変更や、新しい生活様式の徹底、リモート学習の模索など、先の見えない中での対応に大きな戸惑いがあったと思います。

しかし、新型コロナウイルスの特性が次第に明らかになり、対応の仕方もはっきりしてきました。学校や教職員に求められることは、協力と情報の共有だと思います。この感染症の終息にはまだまだ時間がかかると思いますので、ご協力をお願いいたします。早く感染症の心配をしなくてもよい年になってほしいものです。

2 市内小中学校図工・美術作品展について

12月11日から15日までおおり展示ホールで行われた作品展は、本年度から小中合同で開催されました。小中互いに作品を見合うことによって、学んだり、刺激を受けたりしてほしいという意図からの開催だそうです。以前から、中学生の作品の素晴らしさが小学校に伝わったらと思っていたので、今回のように小中の作品を同時に見ることができる企画をありがたく思いました。

参観していた小学生やその保護者も中学生の作品に驚いていました。小学生にとっては、今後の作品制作への目標やヒントになったと思います。もちろん、小学生の作品の中にも、右の絵のようにサツマイモを抱える手を立体的にしたユニークな絵画作品があり、中学生にも参考になると思いました。

教員にとっても、小中の連続性という視点や教材開発という点で学ぶものは多いと思います。多くの子供たちや教員に参考にしてほしい作品展だと思いました。



小・中作品の同時展示



3 いじめ問題対策連絡協議会から

12月11日（金）にいじめ問題対策連絡協議会が行われ、会長の常葉大学太田正義先生から、文部科学省のデータや市内全校で行ったアンケート結果に基づいた報告がありました。

調査開始の5年前に比べいじめ件数は半減しているものの、本年度でも小学校5年生で25.5%、最も少ない中学3年生でも12.4%が被害にあっていると回答しています。多くはからかい等軽微なものですが油断はできません。深刻な案件ほど、被害者本人が軽く話したり、明るく振舞ったりするという報告もあるからです。

太田先生は、大きな事件になった中に、初期のいじめ認知が問題視されたり、初期対応の失敗が解決を遅らせたりする事例があると話しています。軽微ないじめと安易に判断せず、子供に寄り添った聞き取りと共に、その情報を共有することが重要です。

島田市ではいじめにあうと友達に相談する傾向があります。女子にその傾向が強いので、校内で行う悩み等のアンケートに、友達から相談された事を記入する欄が必要だと思いました。島田市からはいじめの重大事件が起きないことを願っています。

4 島田市結核対策委員会に参加して

12月9日（水）に結核対策委員会が開催されました。結核の発症が多い国から入国した児童生徒は、速やかに検査を受けることになっています。各校の理解と協力によってこの作業は順調に進んでおり、ありがたく思いました。

しかし、委員長のレシャード医師から、法定予防接種を受けない人が増えていることを心配する発言がありました。実際、咳が続いたので市民病院に受診させたら、百日咳だったそうです。百日咳は予防接種を受けていれば発症しない病気だそうです。この子の場合、保護者が接種を忘れていたようです。最近の新型コロナウイルス感染拡大によって、予防接種の実施率が下がっているそうです。結核だけでなく風疹など、他の感染症も心配されます。

また、保健所長からは、新型コロナウイルス感染症の最近の傾向として、無症状の人から感染し、無症状のまま治っている人が増えているそうです。これが感染経路不明と、感染の急拡大につながっているという報告もありました。市内でも感染者や濃厚接触者が増加しているので、注意が必要です。

肘かけ椅子

又平 剛 博物館課長

「二割の余裕」

この言葉は、息子が川根中学在学時、野球部の先生がよく言っていた言葉です。当時の川根中野球部は、おそらく県下一厳しい練習だったと思います。しかし、その練習は、野球技術の向上だけでなく、人間形成の場でもありました。先生が発する言葉には、社会でも通じる言葉があったからです。その中で特に印象に残っているのが「二割の余裕」。

息子はよく「プレーに余裕がない！二割の余裕を持て！」と指導されていました。余裕がないから、エラー（ミス）に繋がるし、急な対応もできない。余裕があれば、ミスなく対応でき、もしミスをしてでも最小限に抑えられるということです。これは社会でも同じことであり、気持ちに余裕がないと繁雑になり、ミスや事故を起こしやすい。少しでも余裕があれば、状況を把握でき、的確な判断やスケジュール管理ができます。

今のご時世、仕事や時間に追われ、またコロナ禍の中、大変な毎日を過ごしている方も多いと思います。二割の余裕を持つことは大変なことです。しかし、こういった気持ちを持つことが大事であり、自分は気持ちに余裕がないと感じたとき、この言葉を思い出すようにしています。

息子は社会人になりました。血気盛んな今どきの若者です。あの時、先生に言われた言葉を覚えているか聞いてみると、春夏秋冬、あの練習に耐えたのだから忘れるはずがないとのこと。がむしゃらに白球を追いかけた経験は無駄ではなく、少しずつ一人前の大人になっていく姿に安心しています。